

学会報告

第 49 回米国神経放射線学会 (ASNR : American Society of Neuroradiology) に参加して

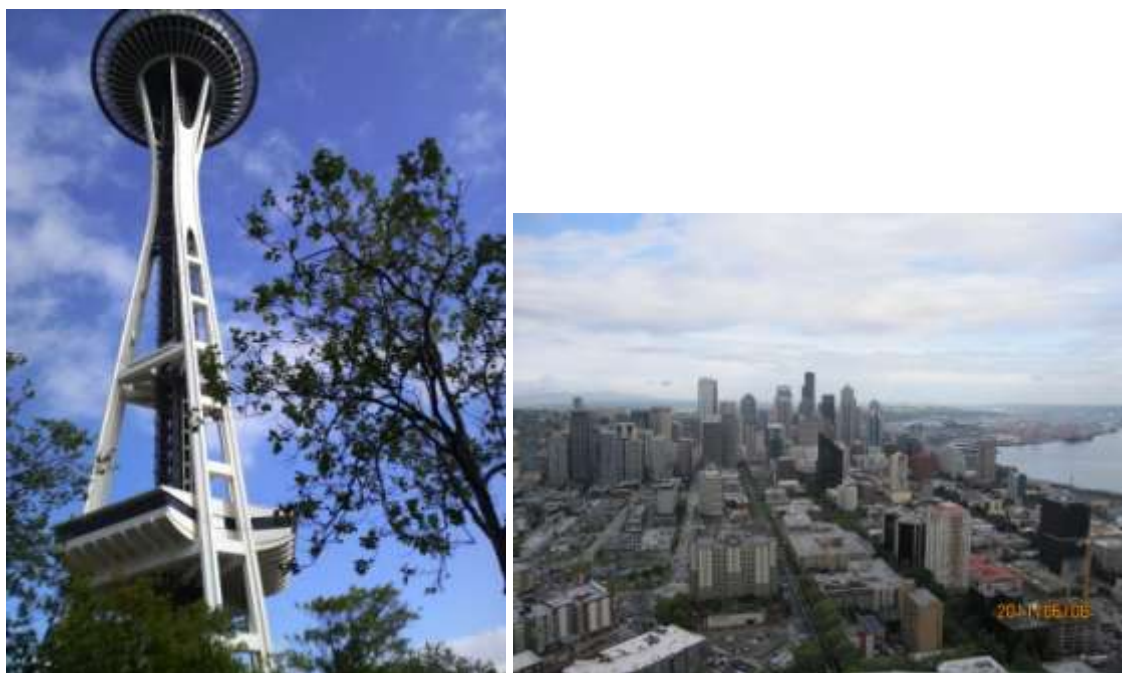
内山雄介 安陪等思

第 49 回米国神経放射線学会が 2011 年 6 月 6~9 日の日程で、ワシントン州はシアトルの州立コンベンションセンターにおいて開催されました。ASNR は、世界で最も大規模な神経放射線学会で、世界中から多くの neuroradiologist が参加します。

ASNR がシアトルで開催されるのは 2004 年 (第 42 回) 以来 7 年ぶりですが、安陪先生は、それより前の 1996 年 (第 35 回) に開催された時以来、二度目のシアトル訪問になりました。私も安陪先生も、2001 年 (第 39 回) にボストンで開催された際に田中先生を含めた三人で参加して以来、しばらく ASNR に参加していなかったこともあり、久しぶりに neuroradiology の最先端に触れたい気持ちが一気に高まった (?) ことはもちろんのこと、安陪先生は前回参加された際、ボーイング社の工場見学がとても印象深かったとのことで、「是非もう一度言ってみたい!」と強く希望されたこと (←ココ重要! …何しろ日本が開発に関わった新鋭機ボーイング 787 型機が組み立て中: 安陪先生は知る人ぞ知る無類の飛行機好き)、またシアトルと言え、なんと言っても日本が誇るメジャーリーガー、イチロー選手が所属するシアトルマリナーズのお膝元であり、イチローの現役プレーを生で観戦できるのもこれが最後かも… (←コレが重要かつ最大の動機…?!) 等々、はなはだ不純な動機が学会への参加意欲を後押ししたことは紛れもない事実だったのですが、そんなこんなで、今回私と安陪先生の二人で参加させていただきました。

安陪先生は Scientific Exhibits のセッションに、“Hemodynamic Balance and Functional Vascular Layer Concept in Head and Neck Arterial Structure” という演題名でポスター発表されました。私はと言いますと “Epstein-Barr Virus-associated Primary Central Nervous System Lymphomas in Immunocompetent Patients showed Characteristic MR images Mimicking Glioblastoma: 4 cases reports and review of the literature” の演題名 (今思うとスゴく長い演題名…汗) で投稿しましたが、私の日頃の行いが悪かったのか、それとも演題名が長過ぎたせいか、はたまた抄録の書き方がイマイチだったためか、今回採択してもらえませんでした。そうい

うこともあり、自分自身カバン持ちで学会に参加することが大変憚られた次第ではありましたが、早淵教授をはじめ、教室の先生がたの厚い計らいで学会に参加させて頂きました。



(写真左) シアトル名物の通称 “Space Needle” と呼ばれているタワー。(写真右) タワー展望台から眺めたシアトル市街地。右側に見える海がピュージェット湾、少し湾が入り込んだところの奥にセーフコフィールドが見えます。

シアトルは、カナダとの国境まで約 180km のアメリカ北西部にあるワシントン州最大の都市（キング群の郡庁所在地、ちなみに州都はオリンピア）で、日本では、スターバックスコーヒー発祥の地、またイチロー選手が所属するシアトルマリナーズ球団があることでもよく知られています。

合衆国の大都市は、何となくどこも似たような景色ですが、シアトルの名物と言えば、1962 年の万国博覧会の目玉として建てられた、通称 “スペースニードル” と呼ばれるタワーが都市の中心部よりやや北西部にそびえ立っています。また、ダウンタウンを降りると眼前にピュージェット湾が広がり、ちょっとしたウォーターフロントが開けているのも特徴的です。日本との時差は 17 時間ですが、成田-シアトル間のフライト時間は約 8 時間 15 分程度と比較的短く、東海岸の都市と比べてそれほど時差は気になりません。イチロー選手の影響で日

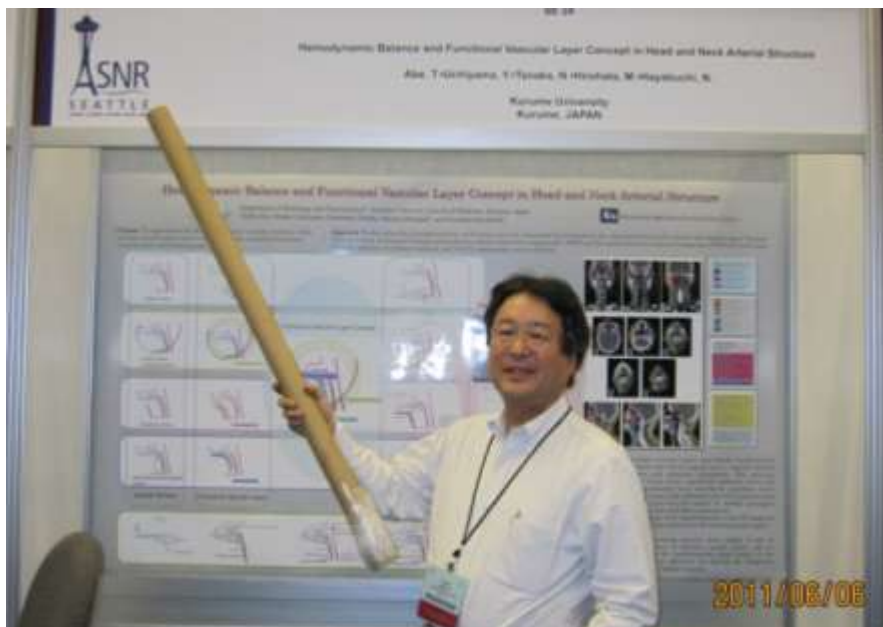
本人観光客が多いせいか、タコマ国際空港ターミナルをつなぐシャトル内では日本語放送もあり、日本人に対して歓迎的なムードが漂っている印象を受けました。学会期間中は朝晩が若干肌寒かったのですが、この時期としては比較的温暖で過ごしやすく感じました。



(写真右) 地下にトンネルのような停留所があるシアトル市内を走るトロリーバス。(写真右) スターバックス発祥の第1号店。入店待ちのお客さんで行列ができていました。入れなかったもので写真だけでもとパチリ！

学会全体の傾向としては、あまり革新的な内容の発表はありませんでしたが、診断の分野では、各疾患に関する総論的な発表や、DWIやDTIなどの撮像法を用いた、治療や手術に対する支援画像、IVR分野ではbioactive coil、Onyxなどの新しい塞栓物質やflow-diverter stentなどを用いた治療の成績評価に関する発表が中心でした。自分の英語力のなさから、耳から入る英語よりも、やはりポスター発表に目が行ってしまいがちでしたが、印象に残ったものとしては、中耳に発生する腫瘍性病変を、耳鏡で見える肉眼的色調が、赤っぽい、白っぽい、青っぽいかの3つに分け、CTやMRIの画像所見と組み合わせて発表していた演題があり、しかも ***“Patriotic Approach*** (“愛国的アプローチ法”とでも訳すのでしょうか?) *to Middle Ear Masses: Red, White, Blue*” のタイトル名で、ポスター全面に星条旗が翻っており(赤・白・青のコントラストがとてもオシャレ!)、Nativeのヒトはインパクトのあるタイトルをつけるのがとても上手だなあ…と関心させられました(対照的に、落とされた自分の演題名の何とダサいことと言ったら…トホホ)。ちなみにこの演題はMagna Cum Laude賞を受賞していました(ヤッパリ)。

以前 ASNR に参加したときと比べてイケイケなムードが若干感じられず、比較のおとなしい地味な学会になったような印象を受けましたが、これも世界的不況や時代の潮流を反映しているのかなと感じました。



ポスター発表会場にて。安倍先生が手にされているポスターケースの端の部分は、行きの飛行機の手荷物で持ち込む際サイズ制限に引っかかり、福岡空港で全日空の人と一緒にカッティングして、プチプチシートで無理矢理くるまれた跡です。

学会中は暇を見つけてシアトル市内を散策したり（スターバックス発祥の第1号店にも立ち寄りましたが、お客さんがとても多くて中に入れず…残念!）、安倍先生のたつての希望であったボーイング社の工場見学や、航空博物館にも行ってきました。

ボーイング社・エバレット工場は、シアトル市街地よりハイウェイで北へ約30分程走ったところにあり、とても広大な敷地に、できたてホヤホヤリストア中の旅客機や貨物機などが整然と並んでおり、その様子は圧巻の一言でした。工場内では、全日空が世界に先駆けて導入を決定した新型機“ボーイング 787”が組み立てられている真っ最中でした。約一時間の見学ツアーの最後は、おきまりの売店コースです。子供への買い物といいながら、ちゃっかり自分用に模型飛行機を購入したことは言うまでもありません。

興奮冷めやらぬうちに航空博物館にも立ち寄りました。歴史的な飛行機が数

多く展示されており、特に第二次大戦中に活躍した戦闘機たちや、かつてケネディ大統領も使用した“エアフォースワン”、コストパフォーマンスの悪さで現役を引退させられたフランスの音速旅客機“コンコルド”などを目の当たりにし、安陪先生と二人で子供の様にはしゃいで写真を撮りまくっていたら（主に安陪先生）、閉館時間をオーバーしてしまいガードマンに怒られる始末です。



ボーイング社エバレット工場にて。納入前や修理後のたくさんの旅客機が工場敷地内に整列している様子はちょっとした飛行場のようです！



（写真左）航空博物館の屋外展示場にある“Air Force One”（写真右）博物館内で年甲斐もなくはしゃぐ安陪先生。因みに、この背景写真、大学内のどこかで見かけたような…読影室の前のリハビリ室の壁！？…見つけてみて下さい！

ASNR 参加時のもう一つの楽しみはメジャーリーグ観戦で、今回は言うまでも無く、イチローの所属するマリナーズの試合です。本拠地セーフコフィールドで行われたタンパベイレイズとの試合に行ってきました。なにしろ到着したその日に行われるデーゲームが4連戦の最終日で、学会期間中に試合を観戦できる最後のチャンスでしたので、空港からホテルに到着すると、その足で野球場へと直行しました。

当日はとても天気が良く絶好の観戦日和、しかもテレビでみたセーフコフィールドと全く同じで（当たり前ですが…）、時折球場の真横を通過する貨物列車が鳴らす“ボー・ボー”という汽笛も聞こえてきて、とても感激しました。この日までイチロー選手は絶不調で、10打席ぐらいヒットが出ていなかったのも、もしかしてスタメン落ちとかだったらシャレにならんなあ…と心配していましたが、そんな二人の心配をよそに、この日は2点タイムリー3塁打を含む5打数2安打（2塁打1本、3塁打1本）の内容で、しかも、接戦で最後にマリナーズが逆転して9対6で勝利するという、まるで絵に書いたような試合内容だったので大満足でした。球場からの帰り際、安陪先生が All Japan のユニフォームを羽織った中年の日本人女性を発見して声をかけたところ、第一回 World Baseball Classic 優勝時にイチローが実際着用していたユニフォーム（しかもイチローの直筆サイン入り！）とのことで、他にもイチローから直接もらったとかいうサイン入りグッズをいろいろと自慢げに見せてくれ、いわゆる“追っかけ”と言われる熱狂的なファンはやっぱりいるんだなあと感心させられました。



シアトルマリナーズの本拠地セーフコフィールドにて（因みに“セーフコ (SAFECO)”はスポンサーをしている生命保険会社の名称）。大リーグの球場は大概どこに行っても芝生の緑がキレイ！（カラーでご覧頂けないのが非常に残念です。）



(写真左) イチロー選手が2点タイムリー3塁打を打った瞬間！正しくはその直前。(写真右) 球場で出会った熱狂的イチローファンの女性が来ていた All Japan のユニフォームを撮らせて頂きました。下にイチロー選手の直筆サイン！

久しぶりの ASNR 参加で少しはしゃぎすぎた感もありますが、学会自体には、7時30分からはじまる朝一番のセッションから真面目に参加し、日常では味わえない様々な刺激を受け、身も心もリフレッシュすることができました。今後の業務や研究活動に生かしていけたらと存じます。

最後になりましたが、学会参加を後押しして頂きました早瀬教授をはじめ、安陪准教授、教室や同門の先生がたに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。